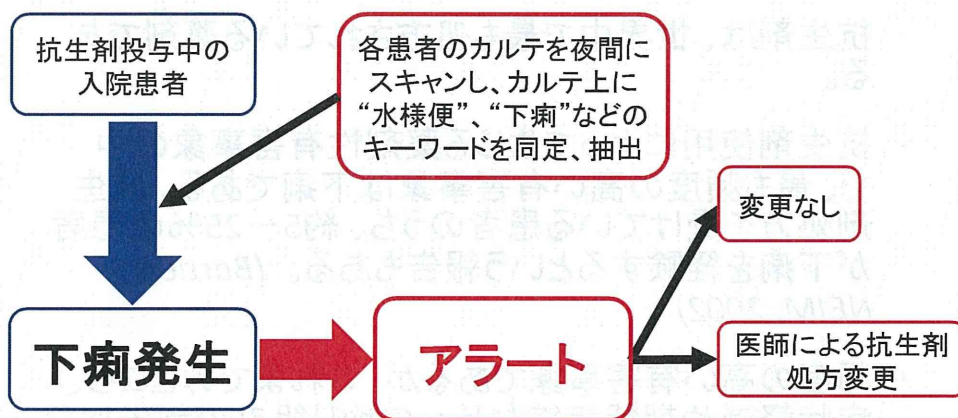


## 目的

- 抗生剤による薬剤性有害事象である下痢の発症を早期に同定することで、不要な長期抗生剤投与を防止し、重症度の軽減と症状持続期間の短縮が可能になると考え、抗生剤投与患者に対する下痢アラートを開発し、そのアラートシステムの効果を検討した。

## 下痢アラートシステム



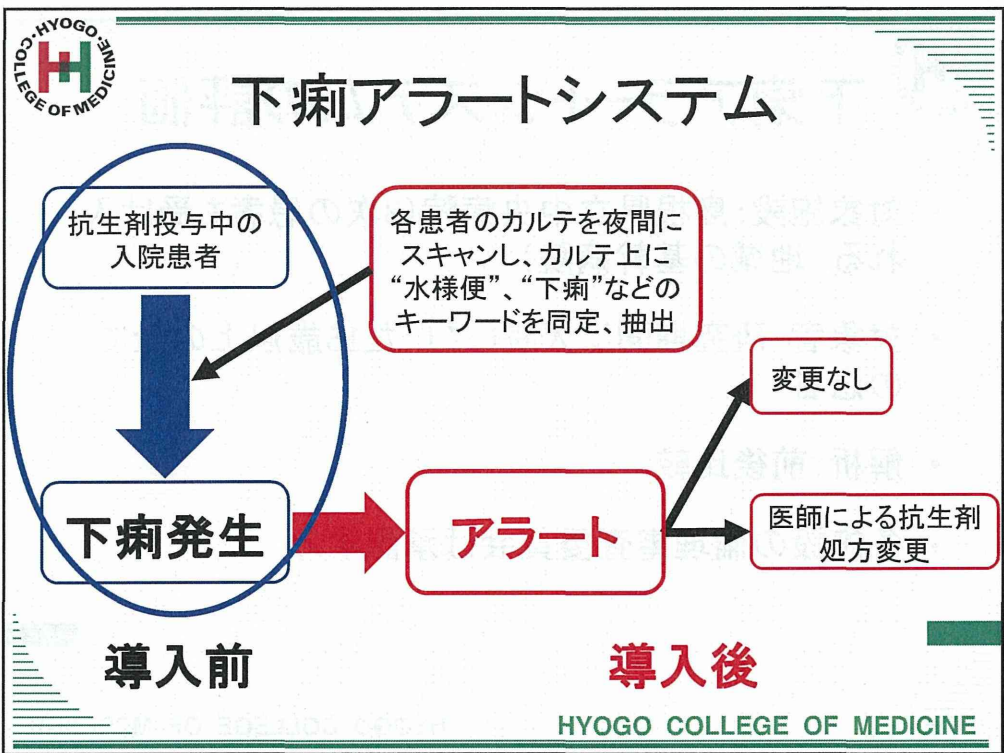
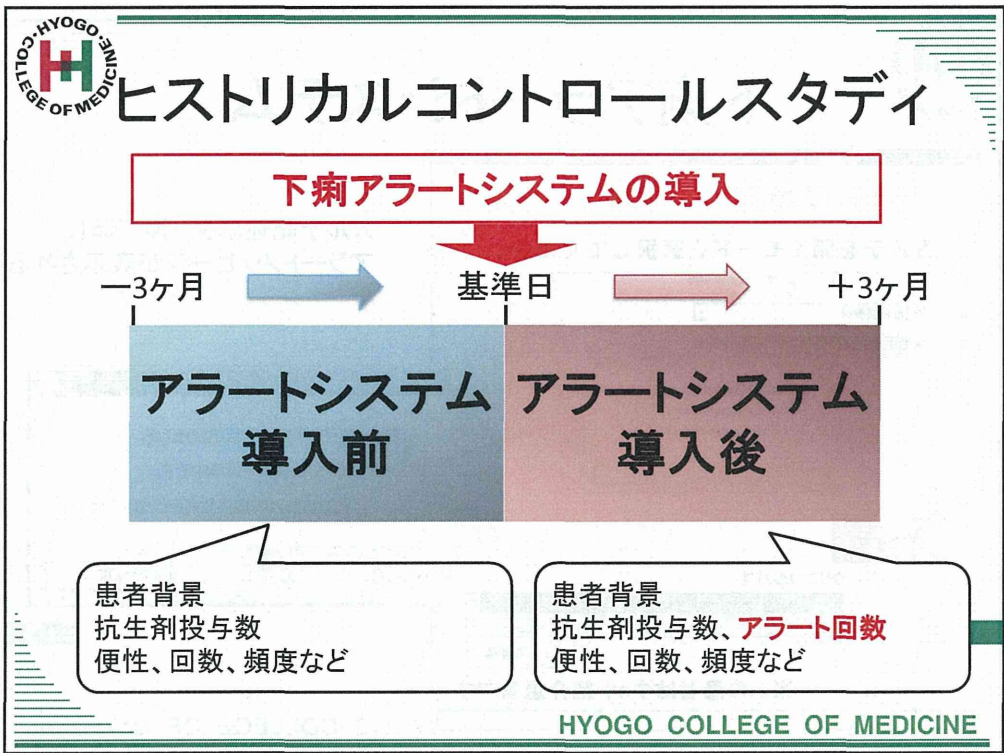
## 下痢アラートシステム

カルテ記述ボタン押下時にアラートメッセージが表示される

HYOGO COLLEGE OF MEDICINE

## 下痢アラートシステムの評価

- 対象施設: 島根県立中央病院 (3次の患者も受け入れる、地域の基幹病院)
- 対象者: 研究期間に入院していた15歳以上の全ての患者
- 解析: 前後比較
- 各施設の倫理審査委員会は承諾済み





## 患者背景

	導入前 (N=3203)	導入後 (N=3237)	P value
年齢 (Median, interquartile)	68 (48, 80)	68 (50, 80)	0.2
高齢者 (>=65yr) (N, %)	1810 (57)	1862(58)	0.4
男性 (N,%)	1518 (47)	1569 (48)	0.4
病棟			0.02
内科系	1346 (42)	1442 (45)	
外科系 & 産婦人科病棟	1679 (52)	1586 (49)	
ICU	178 (6)	209 (6)	
主治医がレジデント(>=3年目) (N, %)	284 (9)	325 (10)	0.1

HYOGO COLLEGE OF MEDICINE



## 定義

### • アラート

➤ **下痢**: 患者カルテ上に、“下痢” または、“水様便” という語が同定されれば、下痢とみなし、アラートを提示する

### • アウトカム

➤ **下痢**: 便性で軟便以上が2日間以上の持続

➤ **下痢日数(日)**: 便性で軟便以上が持続した日数

HYOGO COLLEGE OF MEDICINE



## アラート回数

- アラートシステム導入後、計1633回の下痢アラートが、計262人(8%)の患者で発生した。
- 146(5%)人の患者においては、入院期間中に3回以上の下痢アラートが発生した。

HYOGO COLLEGE OF MEDICINE



## 結 果

	導入前 (N=3203)	導入後 (N=3237)	P value
下痢 (N, %)	1051 (33)	1049 (32)	0.7
下痢日数 (日) (Median, interquartile) (Range)	6407 0 (0, 1) (0 - 84)	6202 0 (0, 1) (0 - 83)	0.6
死亡率 (N, %)	130 (4)	134 (4)	0.9
入院日数 (日) (Median, interquartile)	46369 9 (5, 18)	46536 9 (5, 17)	0.7

HYOGO COLLEGE OF MEDICINE



## 結 果

### • 年齢のサブ解析 : 65歳以上 (N=3672)

	導入前 (N=1810)	導入後 (N=1862)	P value
下痢 (N, %)	783 (43)	797 (43)	0.8
下痢日数 (日) (Median, interquartile) (Range)	4941 0 (0, 3) 0 - 84)	4790 (0, 2) (0 - 83)	0.5
死亡率 (N, %)	112 (6)	100 (5)	0.4
入院日数 (日) (Median, interquartile)	29729 11 (5, 21)	30161 11 (5, 20)	0.3

HYOGO COLLEGE OF MEDICINE



## 結 果

### • 年齢のサブ解析 : 65歳未満 (N=2768)

	導入前 (N=1393)	導入後 (N=1375)	P value
下痢 (N, %)	268 (19)	252 (18)	0.5
下痢日数 (日) (Median, interquartile) (Range)	1466 0 (0, 0) 0 - 58)	1412 0 (0, 0) (0 - 82)	0.7
死亡率 (N, %)	18 (1)	34 (2)	0.02
入院日数 (日) (Median, interquartile)	16640 7 (4, 12)	16375 7 (4, 12)	0.8

HYOGO COLLEGE OF MEDICINE



## 結 論

- 下痢アラートシステムの導入により、下痢発生、持続期間には有意な変化は認められなかった。
- 現在、症状の詳細や抗生剤投与の詳細について、分析を急いでいる。アラートシステムの効果について、更なる分析を行い、サブグループも考慮した、多角的な検討を行っていく。

HYOGO COLLEGE OF MEDICINE



平成26-27年度厚生労働科学研究費補助金  
地域医療基盤開発推進研究事業

## 安全な薬物治療を促進する多職種間 情報共有システムの開発に関する研究

医師を対象とした横断調査によるシステム評価

島根県立中央病院 感染症科

中村 嗣



HYOGO COLLEGE OF MEDICINE



## 背景・目的

- 島根県立中央病院の統合情報システム(IIMS: Integrated Intelligent Management System)において、**腎機能による推奨投与量**を示す臨床支援システムを構築
- 併せて、抗菌薬使用時の**下痢アラートシステム**を稼働
- 医療従事者は、日々の診療において、システムを利用
- それらの有用性などについてアンケート法による**横断調査**(cross-sectional study)を行った

HYOGO COLLEGE OF MEDICINE



## 腎機能による推奨投与量 画面

HYOGO COLLEGE OF MEDICINE





入院注 患者ID: P2009053 患者氏名: 医師 5

※ 手技

点滴静注注射(DIV)	点滴静注注射	なし
静脈内注射(i.v.)	点滴静注注射(右手より)	
筋内注射(i.m.)	点滴静注注射(右足より)	
皮下注射(s.c.)	点滴静注注射(左手より)	
皮内注射	点滴静注注射(左足より)	
IV	点滴静注注射(未精より)	
動脈注射	点滴静注注射	
NICU用手技	点滴静注注射	
局所注入	点滴静注注射	
CAPO	点滴静注注射	
遠近回路内注入	点滴静注注射	

診療科 総合診療科

頻用薬品 薬品検索

商品名 一般名 英名

スルバシリン静注用0.75g

頻用用法 用法検索

抜き差しで 持続で

普通用法1 | 普通用法2 | インスリン等

- 1日1セット
- 1日1セット24時間ずつ
- 1日2セット
- 1日2セット12時間ずつ
- 1日2セット朝夕
- 1日3セット
- 1日3セット8時間ずつ
- 1日4セット
- 1日4セット6時間ずつ
- 1日5セット

※ 選択薬品

Rp	選択薬品	数量	単位	備考
1	スルバシリン静注用1.5g	1	キット	変更
	生食キット100mL	1	キット	変更
	1日4セット			

用量は1回量で入力して下さい。 c

用法コメント

- 食事量の割合に合わせて増減
- 血圧が低下した時に
- シリンジポンプで使用
- 心カテ前に

点滴速度 時間あたり ml

フリー

100文字まで入力できます

※ 適切な時間を過ぎた指示の場合は病棟看護師に必ず連絡して下さい。

参考資料 パーチャル処方 確定 キャンセル

腎機能による推奨投与量

HYOGO COLLEGE OF MEDICINE

下痢アラートシステム 画面

HYOGO COLLEGE OF MEDICINE